

2021年度 連続公開講座 第1回

正倉院宝物の保存

2021年 7・17 [土] | 14:30 16:00
開始 終了

東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センターでは、地域の文化財をいかに守り次世代へ継承し、その活用の技術的課題について地域の皆様と共に考える場、語り合う場として、2014年から連続公開講座を開講しています。

2021年度は全4回の講座を企画し、地域の生活・文化を守り、地域と共に歩み、地域に根差した文化財の保存及び活用について考えます。第1回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンライン開催といたします。第2回以降は感染状況を考慮した上で、オンラインの他、実会場での開催も検討して参ります。

【講演者紹介】

成瀬 正和 (なるせ・まさかず) 東北芸術工科大学 客員教授
元宮内庁正倉院事務所保存課長

1976年埼玉大学理工学部化学科卒業
1978年東京藝術大学大学院美術研究科保存科学専攻修了(芸術学修士)
1983年宮内庁正倉院事務所入所、2016年3月同所退職
著書「正倉院宝物の素材」(2002)、「正倉院の宝飾鏡」(2009)、他共著、論文多数。

申込方法：下記のURL又はQRコードから申込フォームに
必要事項を記入の上お申し込みください。

申込締切：7月12日(月)

※ 申し込みいただいた方には、参加者用のZoomURLとID、パスワードをお知らせいたします。

※ 申込フォームのご利用が難しい場合は

『①氏名(よみがな) ②所属 ③メールアドレス ④電話番号』
を iccptuad@gmail.com (申込専用) までお送りください。

※ 本講座は、WEB会議システム「Zoom」を利用します。当日使用するPC、スマートフォン等へのダウンロード及びサインアップを事前に完了くださいますようお願いいたします。

申込フォーム：

<https://forms.gle/hinSstMCVnnhzbBq7>



2021年度 連続公開講座のご案内 | 全4回

第1回

7/17(土)

成瀬 正和
客員教授

14:30~16:00

正倉院宝物の保存

正倉院宝物は、わが国を代表する文化財です。宝物が日頃どのような体制のもとで、どのように守られ、また活用されてきたのか、戦後から現在に至る取り組みを中心に紹介します。保存の上で最も大きなウエイトを占めるものは、かつては「曝涼」と呼ばれ、現在は空収蔵庫(西宝庫・東宝庫)の中で行われている、保存課全員参加の点検作業です。そこには文化財を守り伝えるということの原点が含まれています。

第2回

10/9(土)

杉山 恵助
准教授

14:00~15:30

表具を愛でる

:掛軸鑑賞入門

展覧会場などで素敵な作品に出会い、図録を購入し帰宅後に見てみると、何か違うと感じた経験はありませんか？それは実物と写真の持つ力の違いの他に、ひよっとすると装丁部分がトリミングされているからかもしれません。掛軸は保存と装飾を兼ね備えた、日本の書画の装丁には欠かせないものです。本講座では、多くの皆様により掛軸に興味を持って頂くために、掛軸の、そして表具の魅力を紹介していきたいと思います。

第3回

12/11(土)

北野 博司
教授

14:00~15:30

熊本城跡復旧の現在

—お城の石垣や建造物を
災害からどう守るか—

壮大な石垣や歴史的建造物が残る城跡は魅力的な観光地として人気を集めています。しかし、近年は大地震や豪雨により石垣が崩壊する事例が発生しており、公園の安全性、文化財の防災が問題になっています。日本文化の象徴、城下町都市のシンボルであるお城をどうやって守っていくのか。熊本地震や東北地方太平洋沖地震などで被災した城跡の復旧事業を紹介しながら、災害と共存する文化財修理の在り方を考えていきます。

第4回

R4/3/5(土)

石崎 武志
センター長

14:00~15:30

積雪寒冷地域の遺跡、 石造文化財の

保存と対策

北海道、東北地域などの積雪寒冷地域では、積雪や零下となる気温変動などにより、石造文化財や歴史的石造建造物が凍結融解を繰り返し、劣化するなどの被害を受けます。また、遺構においては、春先の融雪水の浸透など、遺構の水分状態が年間を通して大きく変動することも劣化要因の一つです。一方で積雪は、断熱材として作用する面もあります。私たちの身近にある石造文化財を守る術を科学の目で見て、考えてみましょう。

